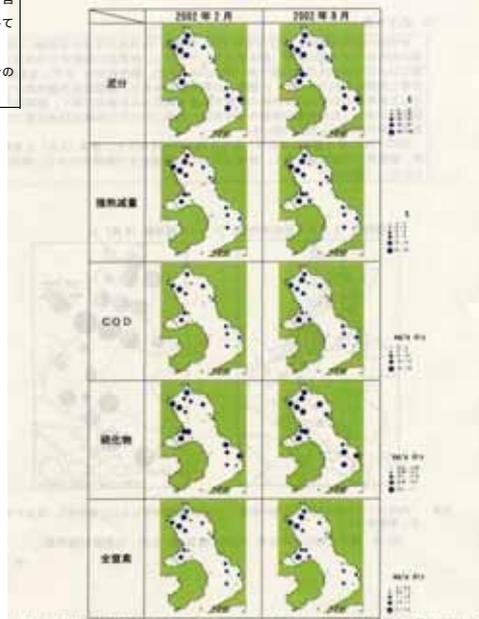
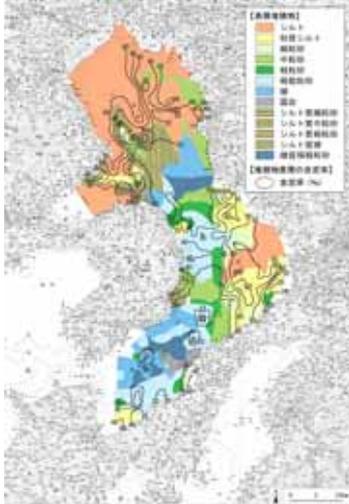


(5) 底質

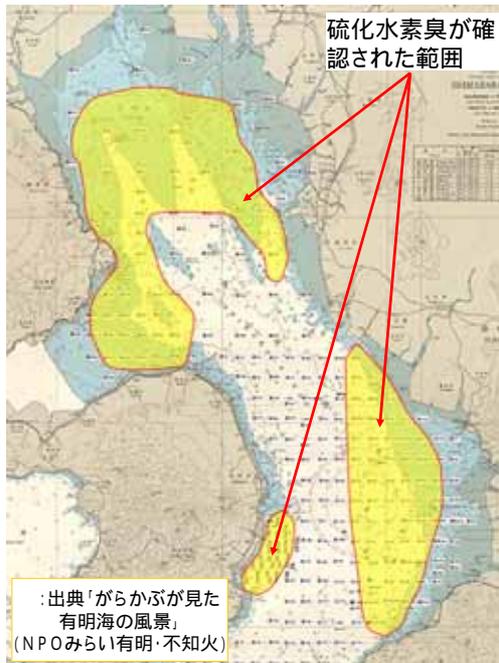
有明海の底質は、湾奥部及び中央部の東側は主にシルト及び砂質シルトであり、含泥率が高い。中央部の西岸から湾口部にかけての海域は主に砂質及び礫質が分布しており含泥率は低い。(図-16)

強熱減量、COD、硫化物及び全窒素の分布は、粒度分布と対応しており、泥分の多い海域で高い値を示している。(図-17)



出典：「「がらかぶ」が見た有明海の風景 - 環境変化をとらえるための表層堆積物（底質）データベース -」（熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター・NPO みらい有明・不知火、平成 16 年）より作成。

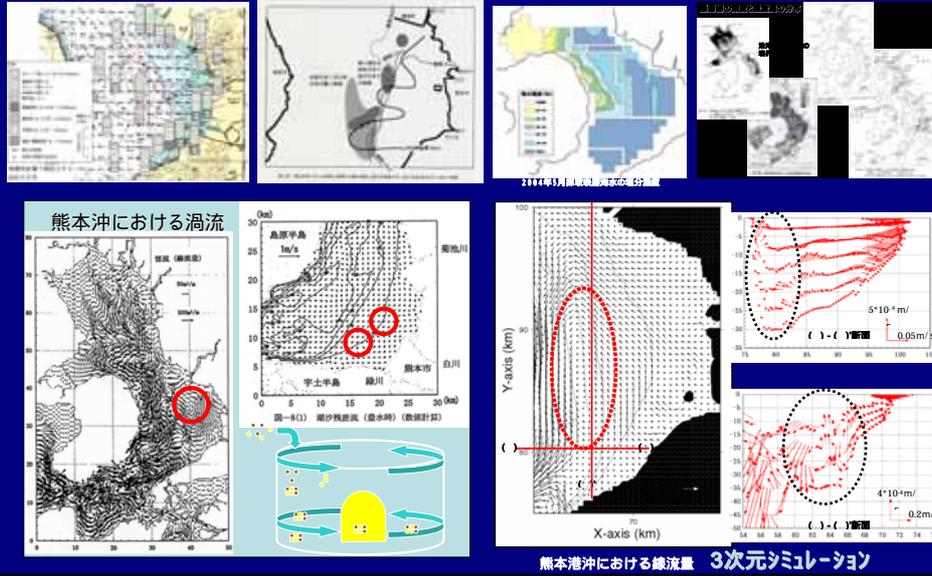
出典：「有明海等環境情報・研究ネットワーク」；「(社)日本水産調査協会 環境情報センター」のホームページ
資料：「有明海環境調査」(環境省)
図-17 底質の水平分布



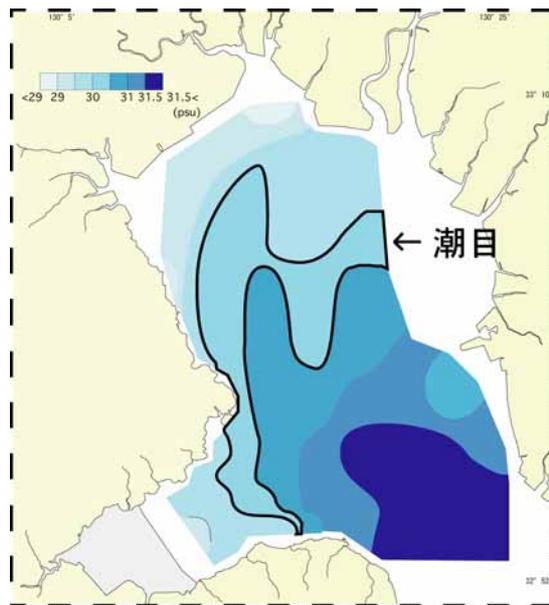
：出典「がらかぶが見た有明海の風景」(NPOみらい有明・不知火)

底質特性調査と工溼環境評価システムの構築

がらかぶが見た有明海の風景 熊本沖の底質変動



底層における塩分と水塊の分布



- ・木下ほか(1979)と同様の傾向
- ・沿岸水と外洋水が混合する海域で30 ~ 30.5psu

(長崎大学教育学部の東 幹夫教授の資料より作成)